

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

# 2013 年度 支援概況マッピング 活動履歴・アンケート 集計結果

2014 年 4 月

集計・作成：陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局

## ■ 支援概況マッピング 活動履歴フォーム・アンケート集計結果

陸前高田市まちづくりプラットフォーム（旧・陸前高田市ネットワーク連絡会）では、2011年度、2012年度と、登録団体を対象に、市内の支援活動における「いつ」「どこで」「だれが」「どんなことを」「どうやって」行っているか、その状況を把握するための支援概況調査（マッピング）を実施してきました。

2013年度は、前年度からの要素に加え、地域別／分野別の割合だけでなく、支援実施にいたる背景、支援提供時（事業実施時）の連携の有無と内容、支援内容の収束または内容切替えの動向や、活動が地域にもたらした変化などについても、アンケートを通じた状況把握を試みています。本年度は累計41団体の会員登録団体の協力のもと、本資料を作成することができました。心より感謝申し上げます。

以下に調査概況・集計結果・アンケート結果をまとめましたので、ご高覧頂けますと幸いです。今回の調査結果が、陸前高田市の復興・まちづくりの一助となりますことを切に願っております。

（ご留意いただきたいこと）

- ・ 本調査は、陸前高田市まちづくりプラットフォーム会員登録団体からの回答をもとに集計を行っています。陸前高田市における支援の「すべて」を「完全に」網羅しているものではないので、傾向としてご高覧下さい。
- ・ 活動内容別割合の円グラフについて、グラフ内の数値合計が100に満たない、または超える箇所がございます。円グラフ作成の仕様（パーセンテージの数値四捨五入）につき、あらかじめご承知おき下さい。
- ・ 集計内容に関するお問い合わせにつきましては、陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局までお願いいたします。なお、団体情報保護の観点から、詳細についてご回答いたしかねる場合がございます。

（お問い合わせ先）

陸前高田市まちづくりプラットフォーム 事務局

メール（推奨）：rtmachip@gmail.com

電話：0192-47-4776（日祝休）

## ■ 支援カテゴリ

・それぞれの支援カテゴリの定義は、以下の通りです（全 21 カテゴリ＋その他）。

項目名	内容
物資配布	物資の配布。配布そのものが目的の場合に限る。（例：衣料品、食料品、生活用品、暖房器具等）
炊出し	飲食物の炊き出し
保健・医療	疾病の予防を目的として行われるサービス・事業（健康予防、健康増進、体調管理など）、および医療行為（身体・精神）
福祉	保健医療サービスを補うために行なわれるサービス（例：病院移送、ケアセンター、訪問介護）
子育て	未就学児の「保育」や預かり、母子保健に関する支援・相談・環境整備（例：託児所、地域子育て支援拠点、母子健康相談、子育て講座）
教育	就学児の学校教育、教育に関する公的機関が協働（主催・共催）している事業、部活動など、学校の枠組みで行われる事業への支援 （例：各教育機関、夜間教育支援事業、部活動バス代や備品の支援）
子ども全般	準学校教育（社会教育・野外活動）、子どもの年齢横断的なネットワーク （例：放課後学童クラブ、発達障がいのサポート、キャンプ活動、図書館、集会所での居場所活動）
住環境整備	仮設住宅まわりの設備・環境支援（屋根・柵・スロープの設置等）
法律	法律相談、法律説明会、その他生活再建に関する専門家相談、窓口の開設、法律勉強会、個別相談会の実施、被災者向け支援制度の利用促進活動等
女性支援	女性の自立支援、雇用促進、男女共同参画の推進
雇用・生業支援	就職のための実践的なノウハウやアドバイス、人材派遣・教育、事業再建支援、失業者の就職支援、就業のための技術講習・情報提供
収入創出	手仕事・起業支援等、スモールビジネスの実施・協働、企画・販路開
産業全般	産官学マッチング、産業分野横断的なネットワーク、産業全般に対するアドバイス
コミュニティづくり	趣味実用、生きがい・やりがいづくり（畑づくり等）、交流会・サロンの開催など
生活支援	主に「個別ニーズ」に基づいた視点での生活上での支援活動（個別ニーズの普遍化による支援/サービス提供も含む） （例：団体戸別見回り、物資支援、移動支援、足湯、傾聴）
キャパビル（講習・研修）	住民向けの講習・研修・勉強会等
情報	・住民に対する全般的な情報提供（例：新聞発行など） ・情報発信のお手伝い（情報の拡散・媒体への掲載）
場所貸し	市民活動のための場所の提供
ボランティア派遣	住民ニーズに基づくボランティア派遣活動
窓口・取次ぎ	住民向け窓口・相談対応や支援のマッチング（有識者・団体の紹介や、相談に応じた情報の提供など）
災害時要援護者支援	高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、傷病者、母語が日本語でない人など、災害時に自力で避難することが困難な人に特化した支援。（例：手話を使った避難誘導のレクチャー、在住外国人に避難関連表示の見方を教える活動など）
その他	上記以外のもの。

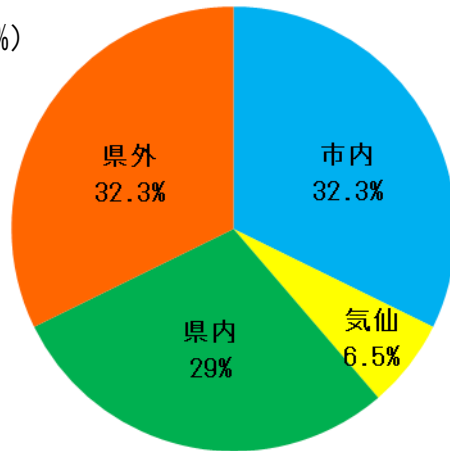
## ■ 調査概況

### 1. 活動履歴

・回答数 31 団体 (前年比 69%)

・回答団体内訳

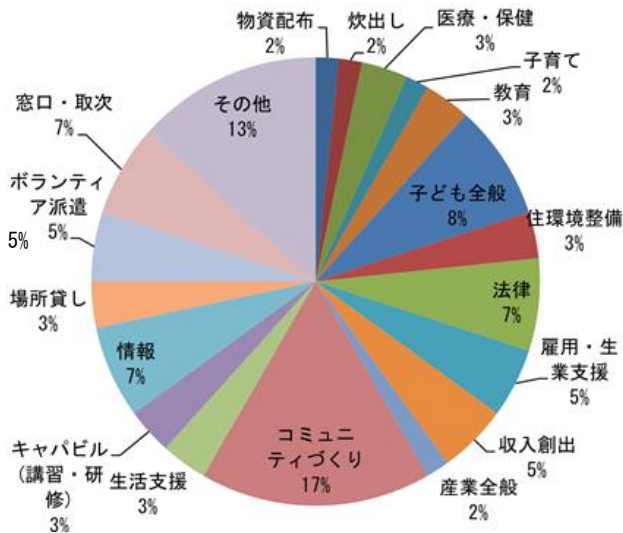
市内	10
気仙地区	2
県内	9
県外	10



・カテゴリ別内訳

(※団体が複数の支援カテゴリを選択している場合、カテゴリごとに1カウント)

物資配布 2%	コミュニティづくり 17%
炊出し 2%	生活支援 3%
医療・保健 3%	キャバビル 3%
子育て 2%	(講習・研修)
教育 3%	情報 7%
子ども全般 8%	場所貸し 3%
住環境整備 3%	ボランティア派遣 5%
法律 7%	窓口・取次 7%
雇用・生業支援 5%	その他 13%
収入創出 5%	
産業全般 2%	

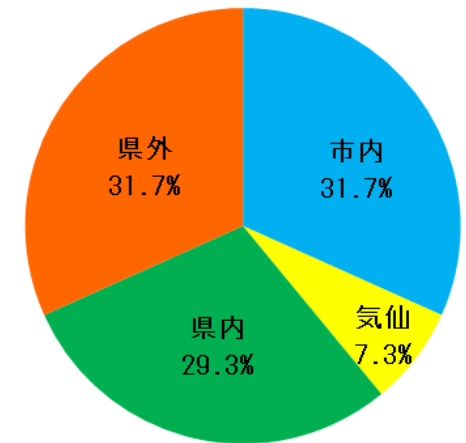


### 2. アンケート

・回答数 41 団体 (前年比 85%)

・回答団体内訳

市内	13
気仙地区	3
県内	12
県外	13



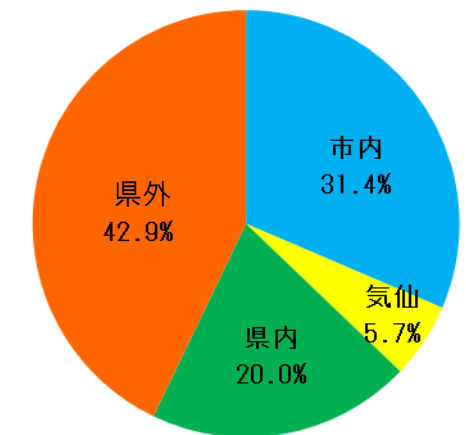
<参考>

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

2013 年度登録団体数 70 団体

・団体内訳

市内	22
気仙地区	4
県内	14
県外	30



# 2013年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

＜横田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボール チーム	【子全般】
グローバルヒューマン	【医・保】 【コミュ】
難民支援協会	【法】

＜竹駒町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
ReVA	【その他】
復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】
シャンティ国際 ボランティア会	【その他】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【コミュ】【医・保】

＜米崎町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】
かながわ311ネットワーク	【雇・生】
子どもグリーンサポート ステーション	【子全般】

＜小友町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】【生活】 【窓・取】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
ReVA	【コミュ】【住】 【生活】
復興ボランティアチーム ・上尾	【コミュ】【住】 【生活】
いわて生活協同組合	【コミュ】
いわて県南パーソナル・ サポート・センター	【雇・生】
シャンティ国際 ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【教】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
前田建設工業株式会社	【コミュ】
かながわ311ネットワーク	【コミュ】【住】
難民支援協会	【法】

＜矢作町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【コミュ】
いわて県南パーソナル・ サポート・センター	【雇・生】
岩手大学三陸復興推進機構	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
難民支援協会	【法】

＜気仙町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
にじのライブラリー	【子全般】【収】【場】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
ReVA	【その他】
復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【収】【医・保】
かながわ311ネットワーク	【教】【ボラ】

＜高田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャパ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
陸前高田青年会議所	【子育て】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
ReVA	【その他】
復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
林・農・海 直売所 ワーカーズコープ	【その他】
いわて県南パーソナル・ サポート・センター	【雇・生】
シャンティ国際ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】
前田建設工業株式会社	【コミュ】

＜広田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【物】【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【ボラ】
シャンティ国際 ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】【雇・ 生】
えんやこーら	【コミュ】

物資配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
医療・保健	【医・保】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャパビル (講習・研修)	【キャパ】
教育	【教】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

# 2013年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

## 活動履歴・アンケート提出団体一覧

岩手県司法書士会／陸前高田司法書士相談センター  
 いわて県南パーソナル・サポート・センター  
 いわて三陸ひまわり基金法律事務所  
 いわて生活協同組合（いわて生協）  
 岩手大学（三陸復興推進機構）  
 特定非営利活動法人 いわて発達障害サポートセンター ええ町づくり隊 高田支部  
 いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクト  
 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター  
 大船渡地区被災者相談支援センター（岩手県沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター）  
 特定非営利活動法人 かながわ311ネットワーク  
 岩大E\_code  
 教育支援チーム「まつ」  
 特定非営利活動法人 グローバルヒューマン  
 健康生活ネットおおふなと  
 特定非営利活動法人 国境なき技師団（EWBJ）  
 特定非営利活動法人 国境なき子どもたち（KnK）  
 特定非営利活動法人 子どもグリーンサポートステーション  
 特定非営利活動法人 桜ライン311  
 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
 一般社団法人 SAVE TAKATA  
 特定非営利活動法人 遠野まごころネット  
 特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク  
 特定非営利活動法人 難民支援協会  
 にじのライブラリー  
 特定非営利活動法人 P@CT  
 特定非営利活動法人 ハマトラ 横浜フットボールネットワーク  
 前田建設工業株式会社  
 公益財団法人 みちのく衛生の会  
 いわてゆいっこ花巻  
 有志ボランティアチーム えんやこーら  
 特定非営利活動法人 夢ネット大船渡

ReVA復興ボランティアチーム・上尾  
 陸前高田市仮設住宅連絡会  
 陸前高田産業支援デスク（名古屋市役所 市民経済局産業労働課）  
 陸前高田市保健医療福祉未来図会議（※通称：未来図会議）  
 社団法人 陸前高田青年会議所  
 特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト  
 陸前高田まちづくり協働センター  
 リコー株式会社  
 林農海 直売所 ワーカーズコープ  
 6大学支援ネットワーク：陸前高田地域再生支援研究プロジェクト

計41団体

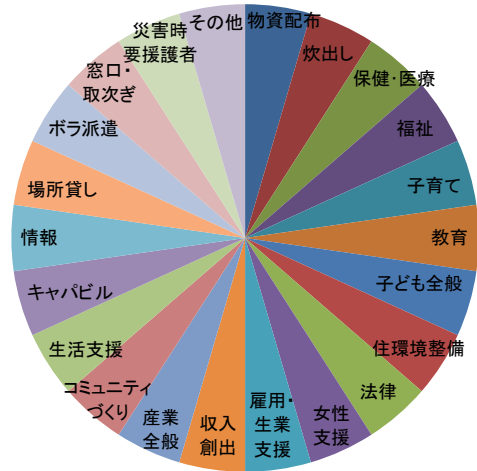
＜住田町＞活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【情】

＜市内全域＞活動団体	活動分野
P@CT	【ボラ】 【その他】
陸前高田まちづくり協働センター	【キャパ】 【情】 【場】 【窓・取】
桜ライン311	【その他】
いわて連携復興センター	【窓・取】
いわて生活協同組合	【ボラ】
岩大E_code	【コミュ】 【情】
いわて県南パーソナル・サポート・センター	【雇・生】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【その他】
岩手県司法書士会	【法】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】 【コミュ】
大船渡地区被災者相談支援センター	【法】
かながわ311ネットワーク	【その他】
陸前高田産業支援デスク	【産業】
難民支援協会	【その他】

物資配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
医療・保健	【医・保】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャパビル (講習・研修)	【キャパ】
教育	【教】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

# 支援内訳

## 地域内の活動内容別割合



- 物资配布
- 炊出し
- 保健・医療
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 子ども全般
- 住環境整備
- 法律
- 女性支援
- 雇用・生業支援
- 収入創出
- 産業全般
- コミュニティづくり
- 生活支援
- キャパビル
- 情報
- 場所貸し
- ボラ派遣
- 窓口・取次ぎ
- 災害時要援護者
- その他

## 活動内容内訳

仮設世帯数：      支援回数：      充足率：      仮設世帯数/支援回数

物資配布	活動回数	割合	収入創出	活動回数	割合
炊出し			産業全般		
保健・医療			コミュニティづくり		
福祉			生活支援		
子育て			キャパビル		
教育			情報		
子ども全般			場所貸し		
住環境整備			ボランティア派遣		
法律			窓口・取次		
女性支援			災害時要援護者支援		
雇用・生業支援			その他		

## 仮設・場所別支援数比

仮設名・場所名 ※	グラフ	活動内容
--------------	-----	------

活動団体	活動分野
団体名	団体が行っている活動

物资配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
保健・医療	【医・保】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャパビル(講習・研	【キャパ】
教育	【教育】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

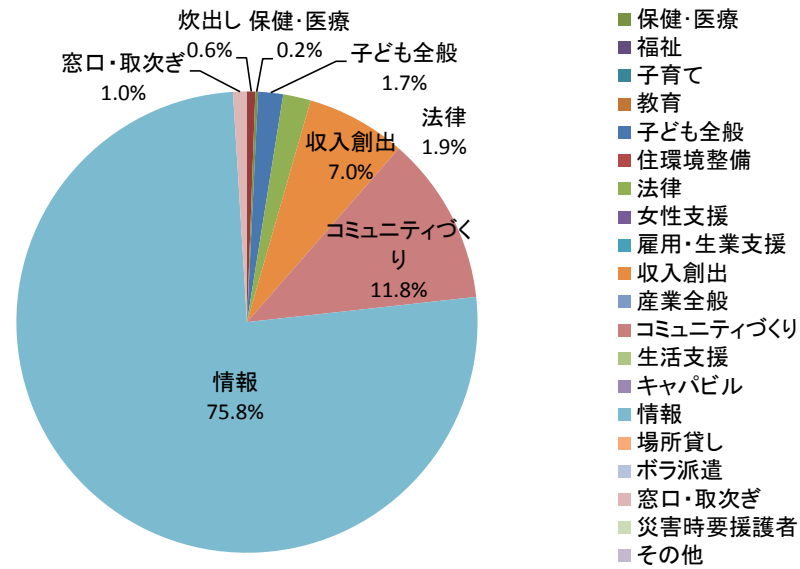
補足事項：

★は今回から支援に入った場所

※学校の敷地内にある仮設住宅は「〇〇学校」として表記されている。学校自体への場合はその他の欄に「陸前高田市立〇〇学校」と表記。

# 横田町支援内訳

横田町 仮設世帯数:218 支援回数:516



活動内容内訳			
仮設世帯数:	218	支援回数:	516
		充足率:	236.7%

物資配布	0	0.0%	収入創出	36	7.0%
炊出し	3	0.6%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.2%	コミュニティづくり	61	11.8%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	391	75.8%
子ども全般	9	1.7%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	10	1.9%	窓口・取次ぎ	5	1.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	0	0.0%

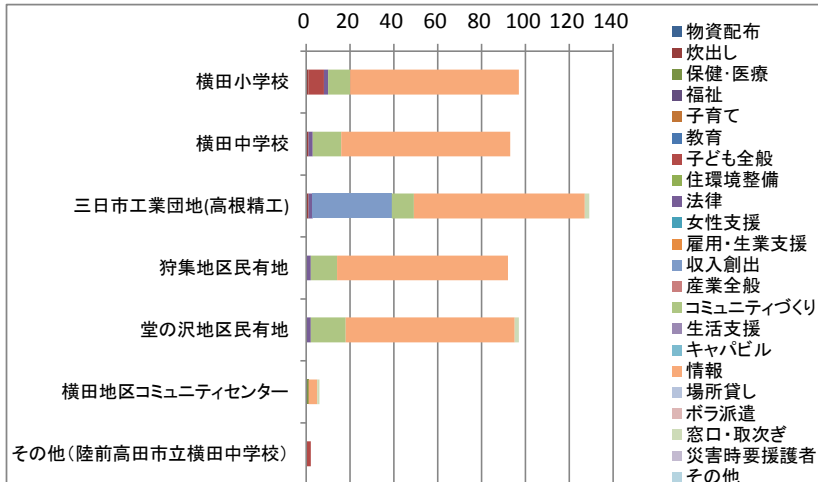
計 516

横田町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】 【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【取】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボールチーム	【子全般】
グローバルヒューマン	【医・保】 【コミュニティ】
難民支援協会	【法】

概況・補足事項:

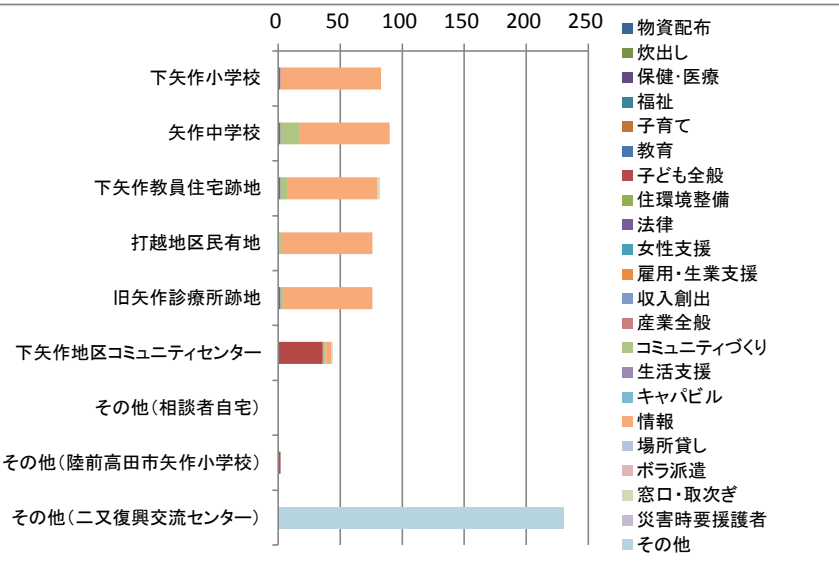
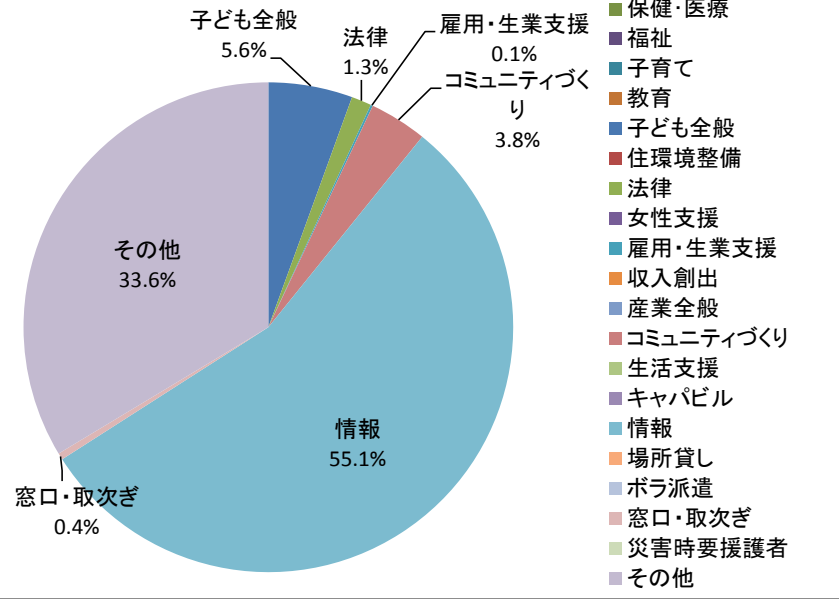
- ・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】にかかわる活動。
- ・特定の仮設特化型の活動がある場合とない場合で支援量に差が出ている。
- ・コミュニティセンターを活用した活動や、その他の場所での活動が少ない。





# 矢作町支援内訳

矢作町 仮設世帯数:153 支援回数:684



## 活動内容内訳

仮設世帯数:	153	支援回数:	684	充足率:	447.1%
--------	-----	-------	-----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	26	3.8%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	377	55.1%
子ども全般	38	5.6%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	9	1.3%	窓口・取次	3	0.4%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	1	0.1%	その他	230	33.6%

計 684

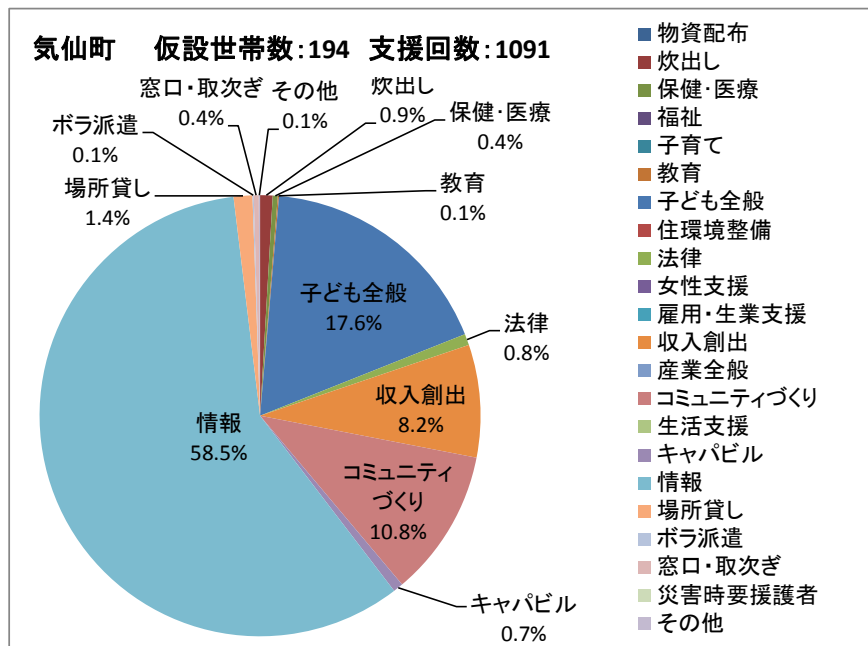
矢作町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【窓・取】
いわて生活協同組合	【コミュ】
いわて県南パーソナル・サポート・センター	【雇・生】
岩手大学三陸復興推進機構	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
難民支援協会	【法】

補足事項:

・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。その他に次いで多いのが、コミュニティセンターで実施されている【子ども全般】にかかわる活動(みちくさルーム)。

# 気仙町支援内訳



活動内容内訳					
仮設世帯数:	194	支援回数:	1091	充足率:	562.4%

物資配布	0	0.0%	収入創出	90	8.2%
炊出し	10	0.9%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	4	0.4%	コミュニティづくり	118	10.8%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	8	0.7%
教育	1	0.1%	情報	638	58.5%
子ども全般	192	17.6%	場所貸し	15	1.4%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	1	0.1%
法律	9	0.8%	窓口・取次	4	0.4%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	1	0.1%

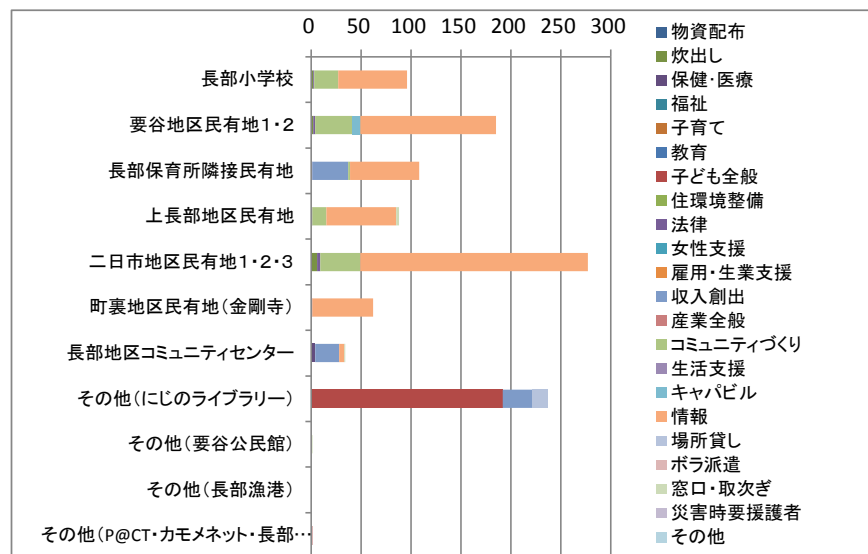
計 1091

## 気仙町

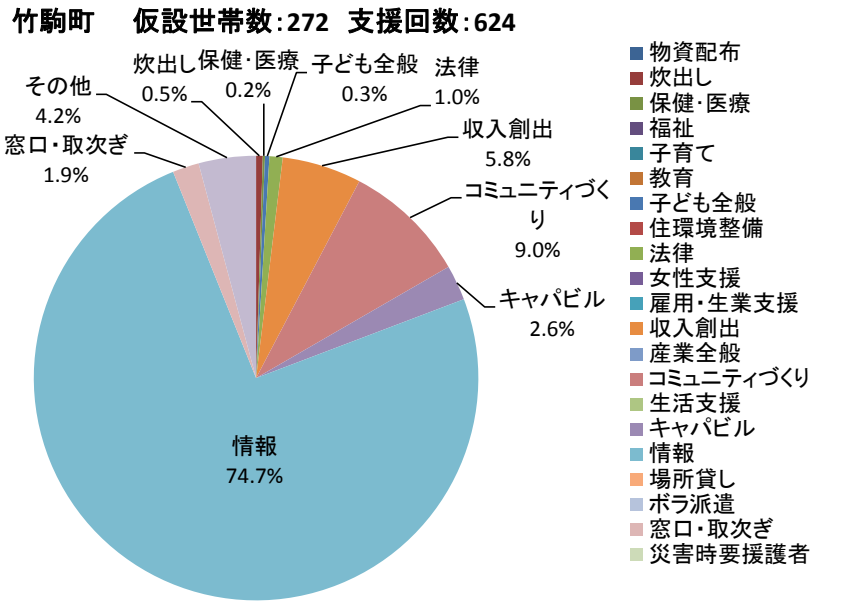
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
にじのライブラリー	【子全般】 【収】 【場】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】 【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】 【コミュ】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【収】 【医・保】
かながわ311ネットワーク	【教】 【ボラ】

### 補足事項:

- ・ 継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。その他に次いで多いのが、にじのライブラリーで行われている【子ども全般】にかかわる活動(図書館)。
- ・ 特徴として、複数箇所での収入創出にかかわる活動がある。



# 竹駒町支援内訳



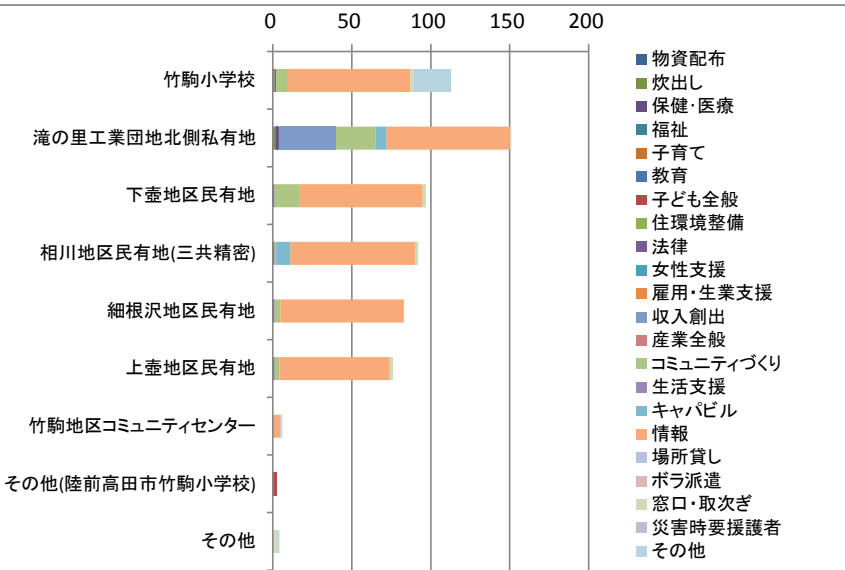
活動内容内訳					
仮設世帯数:	272	支援回数:	624	充足率:	229.4%

物資配布	0	0.0%	収入創出	36	5.8%
炊出し	3	0.5%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.2%	コミュニティづくり	56	9.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	16	2.6%
教育	0	0.0%	情報	466	74.7%
子ども全般	2	0.3%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	6	1.0%	窓口・取次ぎ	12	1.9%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	26	4.2%

計 624

## 竹駒町

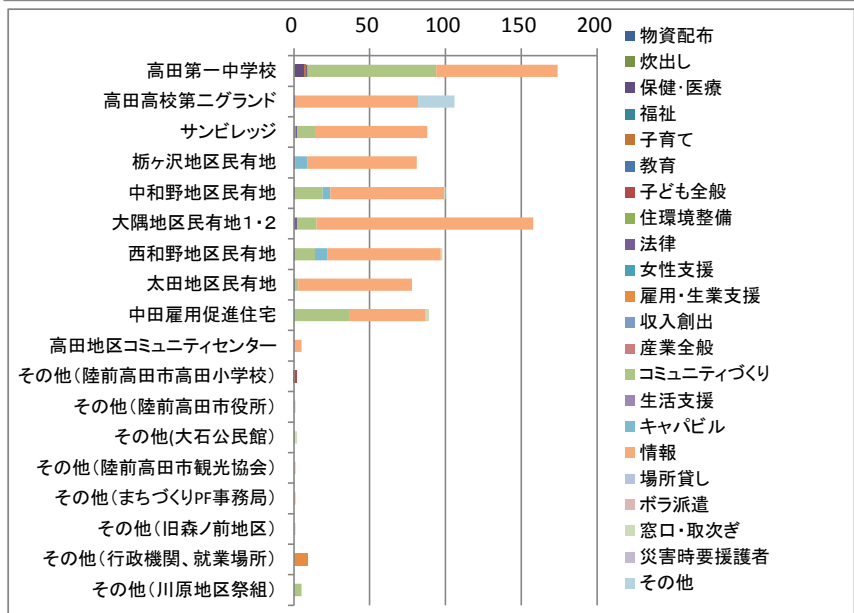
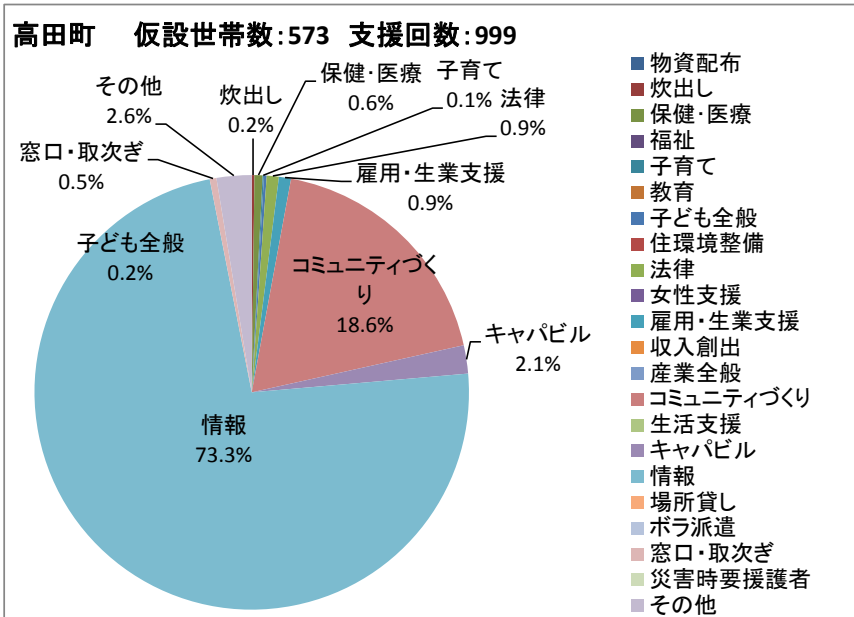
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【取】
シャンティ国際ボランティア会	【その他】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【コミュ】【医・保】



### 補足事項:

・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。  
 ・特徴として、「竹駒小学校」「滝の里工業団地北側私有地」に複数種類の支援が入っている。

# 高田町支援内訳



## 活動内容内訳

仮設世帯数:	573	支援回数:	999	充足率:	174.3%
--------	-----	-------	-----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	2	0.2%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	6	0.6%	コミュニティづくり	186	18.6%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	1	0.1%	キャパビル	21	2.1%
教育	0	0.0%	情報	732	73.3%
子ども全般	2	0.2%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	9	0.9%	窓口・取次ぎ	5	0.5%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	9	0.9%	その他	26	2.6%

計 999

## 高田町

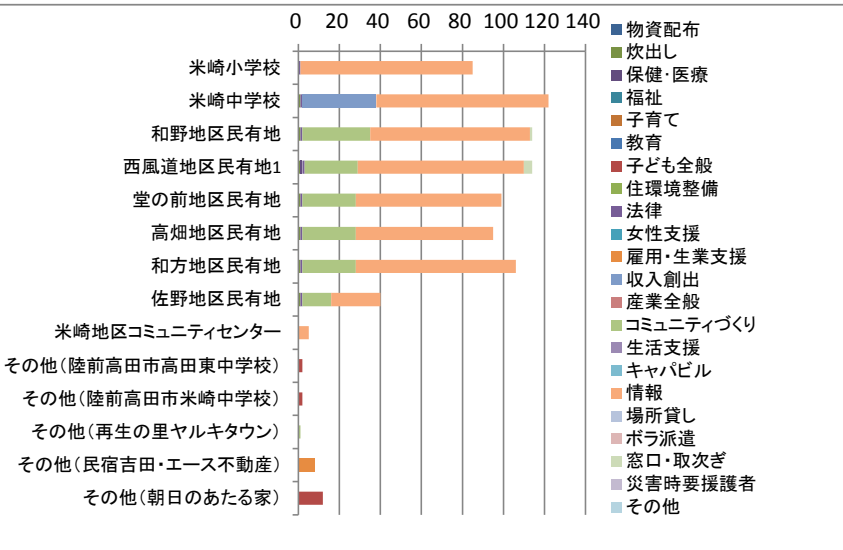
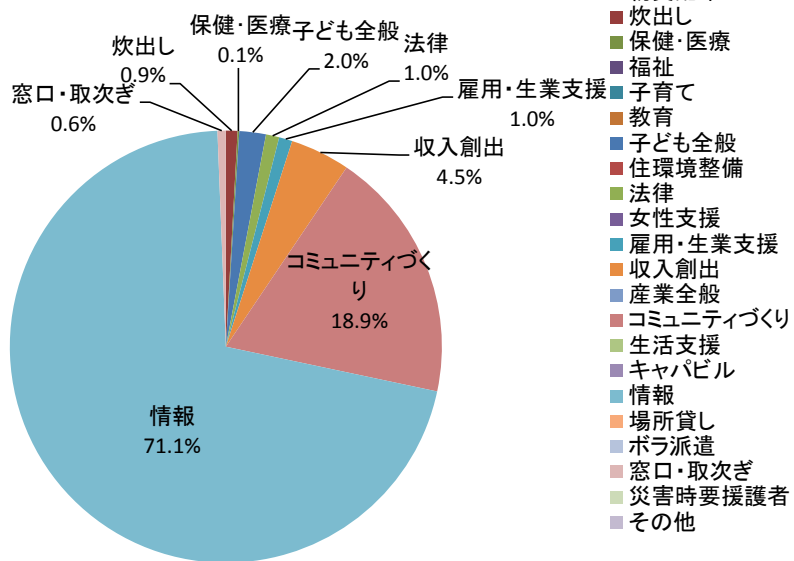
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】【キャパ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【窓・取】
陸前高田青年会議所	【子育て】
いわて生活協同組合	【炊】【コミュ】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【その他】
林・農・海 直売所 ワーカーズコープ	【その他】
いわて県南パーソナル・サポート・センター	【雇・生】
シャンティ国際ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】
前田建設工業株式会社	【コミュ】

## 補足事項:

- ・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。
- ・単独の仮設としては、「高田第一中学校」の支援量が多い。
- ・「その他」の地区が多いのが特徴。

# 米崎町支援内訳

米崎町 仮設世帯数:292 支援回数:805



## 活動内容内訳

仮設世帯数:	292	支援回数:	805	充足率:	275.7%
--------	-----	-------	-----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	36	4.5%
炊出し	7	0.9%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	152	18.9%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	572	71.1%
子ども全般	16	2.0%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	8	1.0%	窓口・取次ぎ	5	0.6%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
キャパビル	0	0.0%	その他	0	0.0%
情報	572	71.1%			
場所貸し	0	0.0%			
ボラ派遣	0	0.0%			
窓口・取次ぎ	5	0.6%			
災害時要援護者支援	0	0.0%			
その他	0	0.0%			

計 805

米崎町

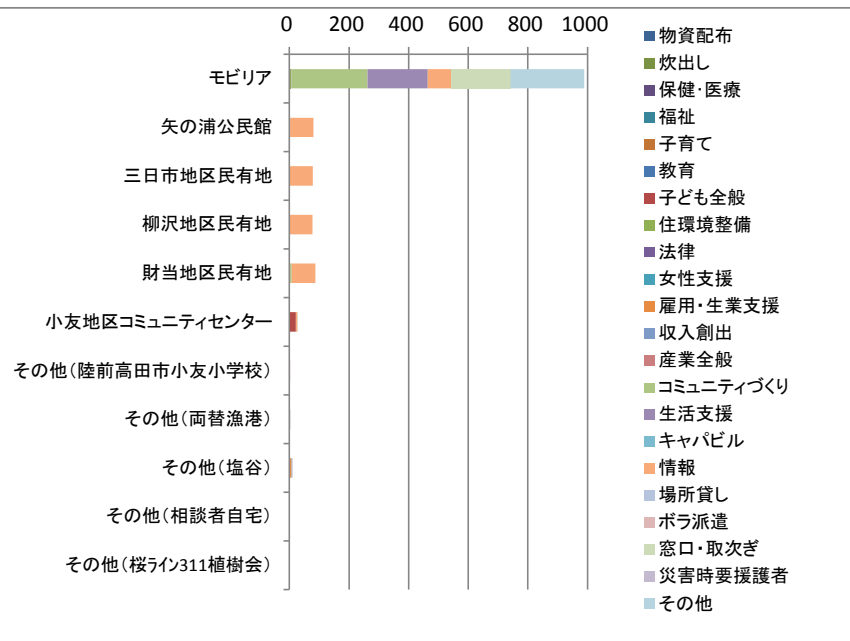
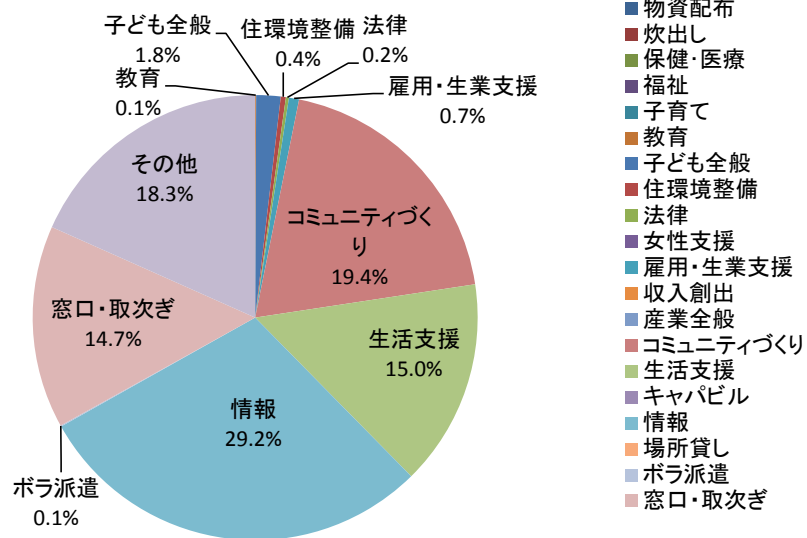
活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】 【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【炊】 【コミュ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【取】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】
かながわ311ネットワーク	【雇・生】
子どもグリーフサポートステーション	【子全般】

補足事項:

・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。  
 ・和野・西風道・堂の前・高畑・和方の【コミュニティづくり】は同5仮設住宅を対象にしたサロン活動。

## 小友町支援内訳

小友町 仮設世帯数:282 支援回数:1358



## 活動内容内訳

仮設世帯数:	282	支援回数:	1358	充足率:	481.6%
--------	-----	-------	------	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	264	19.4%
福祉	0	0.0%	生活支援	204	15.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	1	0.1%	情報	397	29.2%
子ども全般	24	1.8%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	5	0.4%	ボランティア派遣	1	0.1%
法律	3	0.2%	窓口・取次ぎ	200	14.7%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	10	0.7%	その他	249	18.3%

計 1358

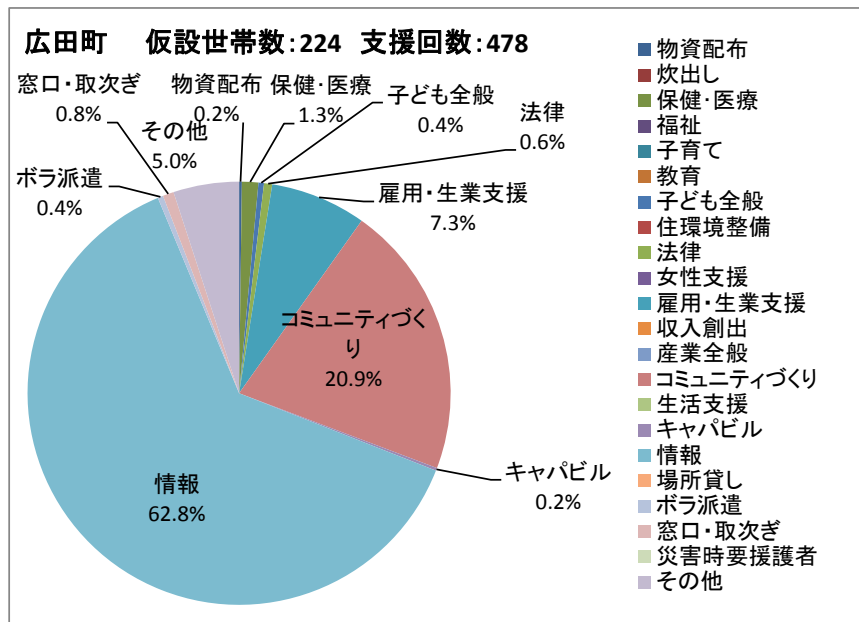
小友町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【コミュ】 【生活】 【窓・取】
P@CT	【子全般】
桜ライン311	【その他】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】 【情】 【窓・取】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【コミュ】 【住】 【生活】
いわて生活協同組合	【コミュ】
いわて県南パーソナル・サポート・センター	【雇・生】
シャンティ国際ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【教】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
前田建設工業株式会社	【コミュ】
かながわ311ネットワーク	【コミュ】 【住】
難民支援協会	【法】

### 補足事項:

- ・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。
- ・モビリアを拠点とした活動を実施する団体が複数あるため、支援回数も市内最大。

## 広田町支援内訳



活動内容内訳					
仮設世帯数:	224	支援回数:	478	充足率:	213.4%

物資配布	1	0.2%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	6	1.3%	コミュニティづくり	100	20.9%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	1	0.2%
教育	0	0.0%	情報	300	62.8%
子ども全般	2	0.4%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	2	0.4%
法律	3	0.6%	窓口・取次ぎ	4	0.8%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	35	7.3%	その他	24	5.0%

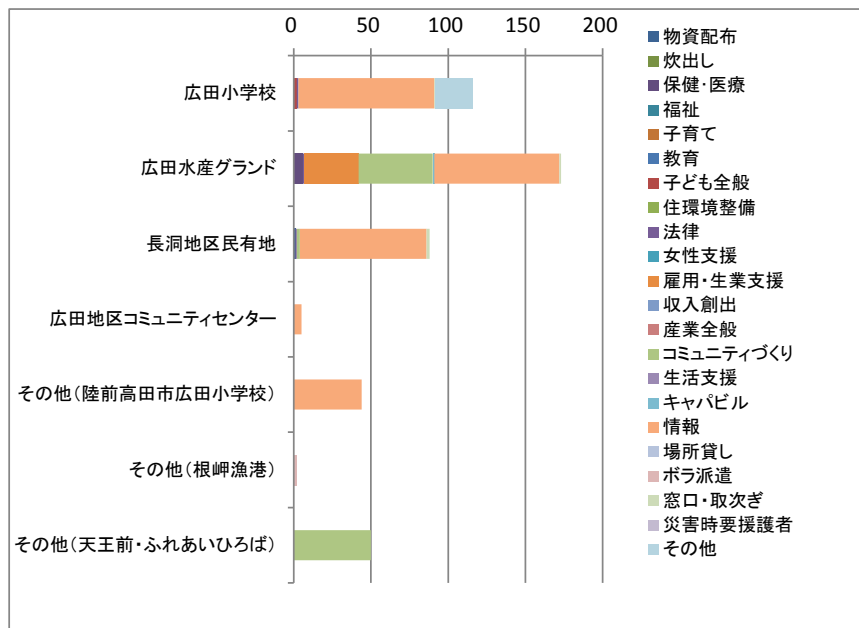
計 478

### 広田町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前たがだ八起プロジェクト	【物】 【コミュ】
P@CT	【子全般】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】 【情】 【窓・取】
いわて生活協同組合	【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【その他】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
グローバルヒューマン	【医・保】 【雇・生】
えんやこーら	【コミュ】

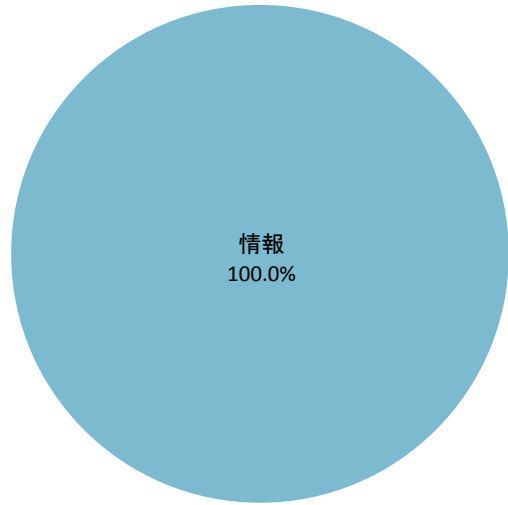
### 補足事項:

- ・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。
- ・地区内では、「広田水産グラウンド仮設住宅」の支援量が多い。



## 住田町支援内訳

住田町 仮設世帯数:63 支援回数:87



- 物資配布
- 炊出し
- 保健・医療
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 子ども全般
- 住環境整備
- 法律
- 女性支援
- 雇用・生業支援
- 収入創出
- 産業全般
- コミュニティづくり
- 生活支援
- キャパビル
- 情報
- 場所貸し
- ボラ派遣
- 窓口・取次ぎ
- 災害時要援護者
- その他

### 活動内容内訳

仮設世帯数:	63	支援回数:	87	充足率:	138.1%
--------	----	-------	----	------	--------

活動分野	回数	割合	活動分野	回数	割合
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	0	0.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	87	100.0%
子ども全般	0	0.0%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	0	0.0%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	0	0.0%

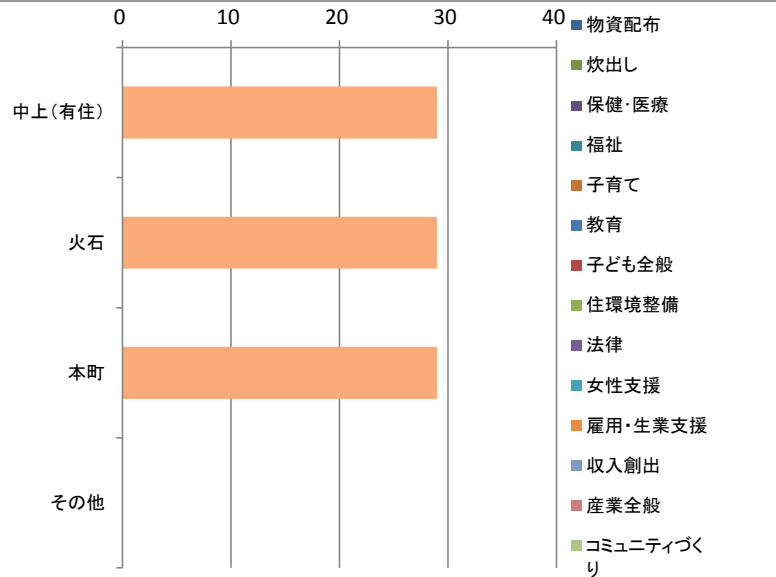
計 87

住田町

活動団体	活動分野
夢ネット大船渡	【情】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【情】

補足事項:

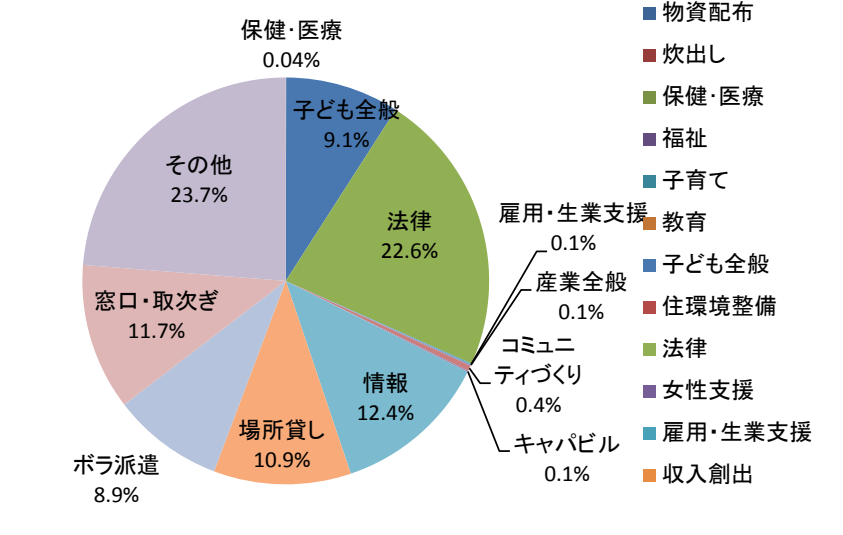
・継続的な情報提供支援を行う団体が2団体活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。





## その他・市内全域対象 支援内訳

その他 仮設世帯数： 2271 支援回数：



活動内容内訳					
仮設世帯数：	2271	支援回数：	2729	充足率：	120.2%

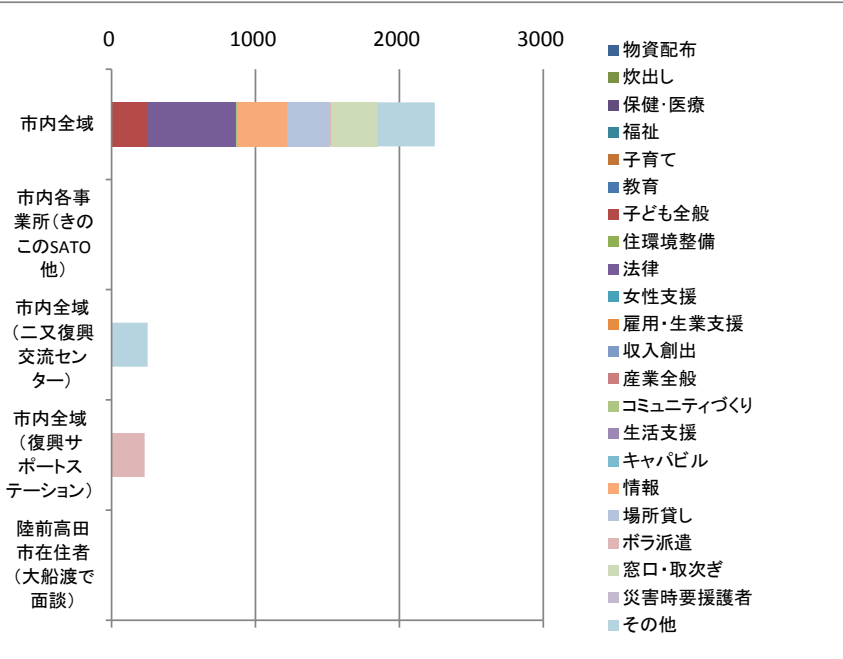
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	3	0.1%
保健・医療	1	0.04%	コミュニティづくり	12	0.4%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	3	0.1%
教育	0	0.0%	情報	339	12.4%
子ども全般	247	9.1%	場所貸し	298	10.9%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	242	8.9%
法律	616	22.6%	窓口・取次	318	11.7%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	2	0.07%	その他	648	23.7%
			計	2729	

その他・市内全域対象

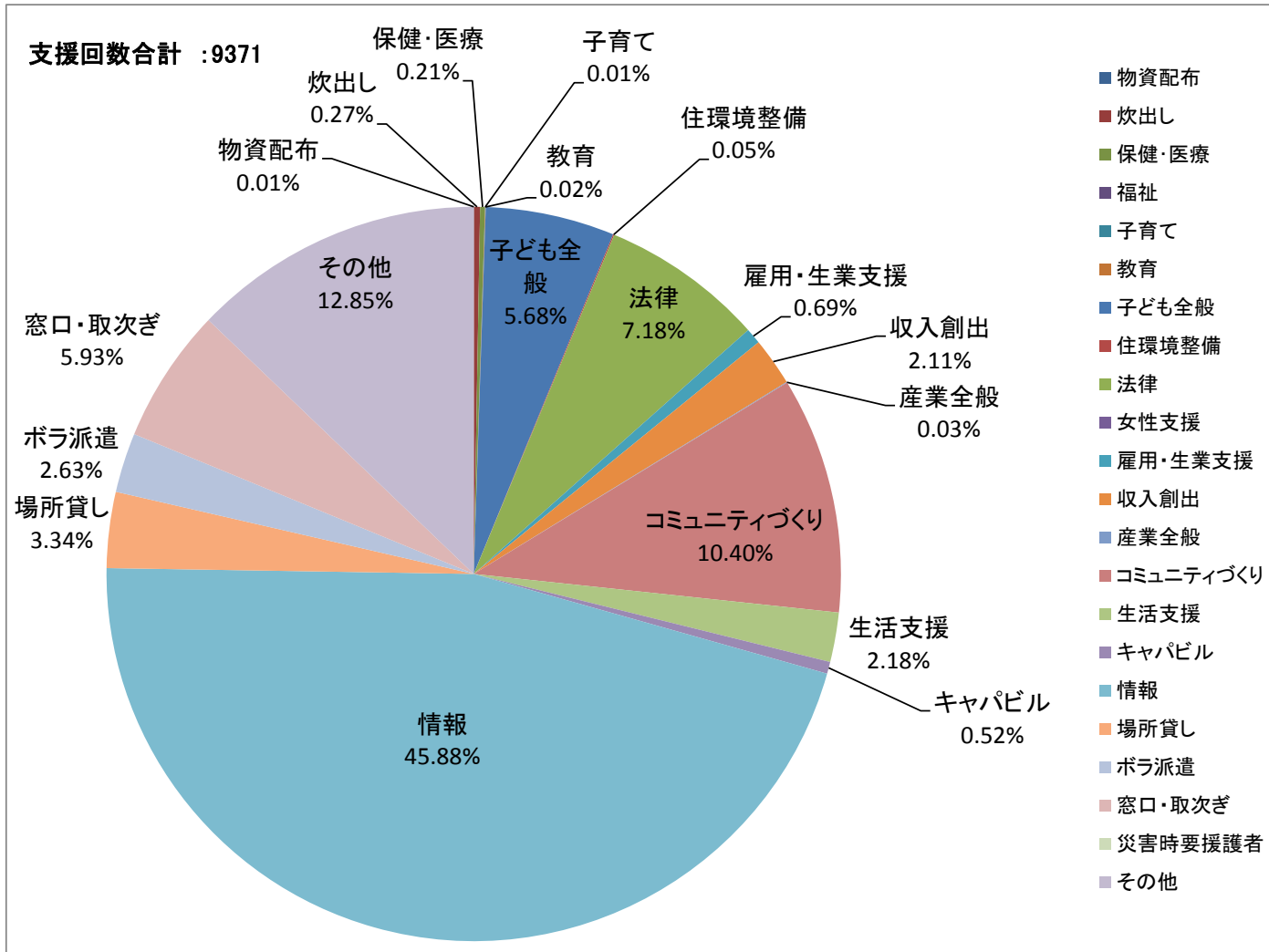
活動団体	活動分野
P@CT	【ボラ】 【その他】
陸前高田まちづくり協働センター	【キャパ】 【情】 【場】 【窓・取】
桜ライン311	【その他】
いわて連携復興センター	【窓・取】
いわて生活協同組合	【ボラ】
岩大E_code	【コミュ】 【情】
いわて県南パーソナル・サポート・センター	【雇・生】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【その他】
岩手県司法書士会	【法】
岩手大学三陸復興推進機構	【医・保】 【コミュ】
大船渡地区被災者相談支援センター	【法】
難民支援協会	【その他】

補足事項：

・【法律】【情報】【窓口】【場所貸し】【その他】に関しては、通年開設の支援拠点機能を有しているものや、巡回型の支援活動、また、通年かけて実施する事業内容の支援があるため、支援量が多くなっている。



# 合計



活動内容内訳		
支援回数 :	9371	
物資配布	1	0.0%
炊出し	25	0.9%
保健・医療	20	0.73%
福祉	0	0.0%
子育て	1	0.0%
教育	2	0.1%
子ども全般	532	19.5%
住環境整備	5	0.2%
法律	673	24.7%
女性支援	0	0.0%
雇用・生業支援	65	2.38%
収入創出	198	7.3%
産業全般	3	0.1%
コミュニティづくり	975	35.7%
生活支援	204	7.5%
キャパビル	49	1.8%
情報	4299	157.5%
場所貸し	313	11.5%
ボランティア派遣	246	9.0%
窓口・取次	556	20.4%
災害時要援護者支援	0	0.0%
その他	1204	44.1%
計	9371	

## 支援概況アンケート集計結果

### 【概要】

アンケート実施期間：2014年2～3月

対象期間：2013年2月～2014年1月

内容：対象期間内における支援活動の内容・変遷等とその背景・経緯について

<参考>アンケート質問事項

1. 対象期間（2013年2月～2014年1月）における、陸前高田での支援活動についてお尋ねします。
  - 1-1. 対象期間の主たる活動について、内容を教えてください。（自由記述）
  - 1-2. その活動を開始したきっかけを教えてください。
    - ・要因（選択式）：現地における対象者からの声／代表者・コアメンバーからの発案／そのほかの要因
    - ・概要（自由記述）
2. 対象期間（2013年2月～2014年1月）における、貴団体の陸前高田での支援活動の継続状況を選択してください。（選択式）

まだ継続している活動がある／すべての活動が途中で終了している
3. 対象期間（2013年2月～2014年1月）に行なわれていた活動のうち、2014年2月現在も継続しているものについてお教えてください。（自由記述）
  - ・変化の有無
  - ・生じた時期
  - ・生じた変化
  - ・背景・理由
4. 活動のうち、対象期間（2013年2月～2014年1月）内で終了したものについてお尋ねします。
  - 4-1. 終了の形態（選択式）

対象期間内で終了した事業はない／陸前高田で展開してきた活動の一部を終了（継続している活動も有）／陸前高田での事業をすべて終了し撤退（団体としての活動は継続）／団体そのものを解散／その他
  - 4-2. 終了した活動の内容（自由記述）
  - 4-3. 対象期間（2013年2月～2014年1月）内に、支援活動を終了した理由は何ですか？（差支えの無い範囲でお知らせください。）（自由記述）
  - 4-4. 活動を終了する際の、引き継ぎ有無と、その背景を差支えの無い範囲でお知らせください。（自由記述）
    - ・引継ぎ有無
    - ・背景
5. 対象期間（2013年2月～2014年1月）で、活動が地域にもたらした変化を教えてください。（自由記述）
  - ・生じた時期
  - ・生じた変化
  - ・内容の詳細
6. 対象期間（2013年2月～2014年1月）における、他団体や行政・企業との連携事業についてお尋ねします。各連携事業について、取組まれた時期・内容・理由と、成果・反省点について、差し支えのない範囲で教えてください。
  - ・事業名
  - ・事業の時期
  - ・実施頻度
  - ・連携相手
  - ・自団体の役割
  - ・連携先の役割
  - ・連携に至った理由・背景
  - ・事業実施の成果・反省点

参考：カテゴリー一覧

【物】	物資配布	【子全般】	子ども全般	【産業】	産業全般	【ボラ】	ボランティア派遣
【炊】	炊出し	【住】	住環境整備	【コミュ】	コミュニティづくり	【窓・取】	窓口・取次
【医・保】	医療・保健	【法】	法律	【生活】	生活支援	【要援】	災害時要援護者支援
【福】	福祉	【女】	女性支援	【キャパ】	キャパビル（講習・研修）	【他】	その他
【子育】	子育て	【雇・生】	雇用・生業支援	【情】	情報		
【教】	教育	【収】	収入創出	【場】	場所貸し		

【結果・概況】

回答数：41 団体

1. 支援活動内容

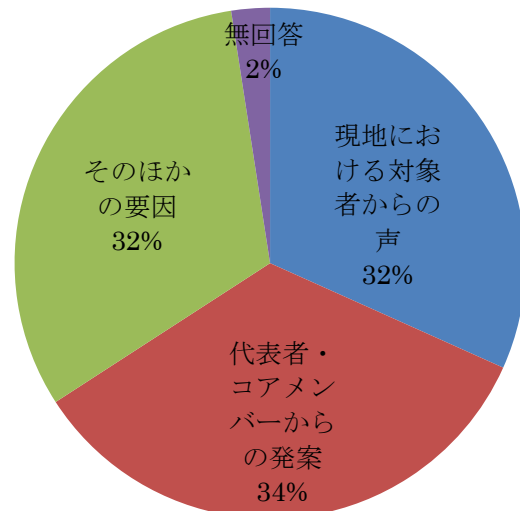
1-1. 対象期間内に実施された活動内容一覧

<p>生活支援</p>	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し</li> <li>・物資配布</li> </ul> <p>【仮設・みなし仮設を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援活動</li> <li>・見守り活動</li> <li>・移動販売車</li> <li>・環境整備</li> <li>・移動支援</li> </ul>	<p>【専門職以外のケア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴活動</li> <li>・足湯活動</li> <li>・リフレッシュツアーの開催</li> <li>・心身の健康を基軸にしたサロン・イベント開催</li> </ul>
<p>保健・医療・福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による心のケア（リラクゼーションセミナー）</li> </ul>	
<p>教育・子ども</p>	<p>【学校支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学用品配布</li> <li>・被災学校に対するニーズ調査</li> <li>・情報交換会の開催</li> </ul> <p>【場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所作り（サロン・イベント）</li> <li>・移動型子どもセンターによる子どもの居場所作り・見守り支援</li> <li>・近隣の子ども達及び教師の居場所づくり</li> </ul>	<p>【支援事業・ケア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの見守り活動</li> <li>・発達面で支援が必要な未就学児・児童に対するサポート</li> <li>・大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラム（ワンデイ交流会）の開催</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども支援関係者の連携会議の開催</li> </ul>
<p>なりわい（雇用・収入創出・産業支援）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内における「観光」「IT」「インフラ」を中心とした事業</li> <li>・簡易宿泊施設運営管理</li> <li>・手作り品の販売</li> <li>・生業作り</li> <li>・漁業者の手伝い</li> <li>・直売所の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援事業</li> <li>・産業支援マッチング（物資他）</li> <li>・名古屋圏の事業者と陸前高田の事業者のマッチング</li> </ul>
<p>コミュニティづくり（サロン・イベント運営・地域コミュニティアプリ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸講座</li> <li>・図書館／コミュニティ図書室の運営</li> <li>・仮設住宅への支援をきっかけとした、コミュニティ再生・新生サポート</li> <li>・イベント運営支援（お祭等地域行事含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティスペース（カラオケ・お茶っこルーム）開設</li> <li>・イベント開催（小学生対象のフットサル交流会・食事会）</li> <li>・広場の花壇造り／花壇や畑の手伝い</li> </ul>

法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司法書士による相談業務（窓口開設・仮設住宅への戸別巡回相談）</li> <li>・法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援センターの運営・窓口での相談対応・専門家相談（弁護士、司法書士等）の実施</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興・まちづくりに関するニュースをまとめた情報媒体の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌（フリーペーパー）の刊行</li> <li>・ガイドブック作成（取材ツアーの実施～発行）</li> </ul>
ボランティア（派遣・コーディネート）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア派遣（ボラバス・大学生）</li> <li>・ボランティア受け入れ、窓口業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・支援団体コーディネート</li> </ul>
その他	<p>【キャパビル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元団体立ち上げ・運営支援</li> <li>・研修・講習の開催</li> </ul> <p>【防災・減災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・減災を目的とした、市内全域の植樹活動・映画上映</li> <li>・防災教育を目的とした神奈川県内の高校の修学旅行や部活合宿のコーディネート</li> </ul> <p>【中間支援・後方支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内における中間支援（相談窓口の開設・情報発信）</li> <li>・県内・管内での中間支援業務</li> <li>・関係団体の事業への物資（印刷物提供）・資金面での支援</li> </ul>	<p>【人材派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所にシニア土木技術者の派遣</li> </ul> <p>【連携促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援団体間のネットワーク強化</li> </ul> <p>【調査活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅での調査活動</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体の復興まちづくりに向けたワークショップの開催等</li> <li>・青少年の健全な育成に資する活動（企画開催等）</li> </ul>

## 1-2 活動を開始した要因

現地における対象者からの声	31.7% (13 団体)
代表者・コアメンバーからの発案	34.1% (14 団体)
そのほかの要因	31.7% (13 団体)
無回答	2.4% (1 団体)



○現地での対象者の声から

<b>「復興ニュース」の発行・配布、手芸講座、傾聴活動など。</b>
震災直後からの「復興ニュース」発行・配布。支援活動の中で住民からの声として、イベント情報や行政の動きなどの情報がもっと欲しい、手芸講座を開いてほしい、等と発展。そのうち仮設住民の環境変化による生活の中で、孤立している住民も散見されるようになり、その人の元気を創出できるなら、時間を割いて「話を聞く」ことをやってみようではないかと言うことになり、現在まで継続している。
<b>ボランティア派遣、コミュニティ支援、生活支援、生業作り</b>
現地のニーズに合わせてのボランティアコーディネート。コミセン・公民館を利用したコミュニティ支援。必要状況を確認したうえでの物資支援。上長部地区での6次産業化支援。
<b>モビリア仮設住宅団地における、自立支援活動</b>
オートキャンプ場モビリアが避難場所になったことにより、地元住民が立ち上げたNPO法人。陸前高田市で最大の仮設住宅団地の支援活動が主である。生きがいづくり、やりがいづくりを、中心として活動を行う。
<b>子ども支援（子どもの居場所作り、イベント、学用品配布、子ども支援NW事務局等）</b> <b>陸前高田市復興サポートステーション（ボランティア受け入れ、窓口業務）</b> <b>陸前高田市二又復興交流センター（簡易宿泊施設運営管理）</b>
<b>仮設住宅への支援をきっかけとした、コミュニティ再生・新生サポート</b>
仮設住宅自治会長たちが、「支援団体との調整を含む自治会管理等における会長や役員の負担が大きい」「他の仮設の状況がわからない」「支援格差の問題」等の話をする中で、解決に向けたアクションを！との動きが強まり、会長ら自らが市へアプローチし、委託事業として事業を開始した。
<b>被災した子どもたちに対する長期的な見守り活動、被災学校に対するニーズ調査・支援事業、「学校支援連絡会」の開催、近隣の子どもたち及び教師の居場所としての「cafeまつぼっくり」の運営</b>
東日本大震災により地震と津波で甚大な被害を受けた陸前高田市では、地域・学校・家庭という、子どもを支える基盤全てが弱体化した。そこで、同市の被災学校に勤務経験のある教職退職者が中止になって、被災学校や教師を支援し、子どもの教育環境の復旧・整備を支援すると共に、教師と共に陸前高田市の教育課題を考え合い、被災した子どもたちを長期的に見守り支援することとなった。
<b>発達面で支援が必要な未就学児、児童に対して個々のニーズに応じたサポート</b>
震災後、陸前高田市全域にニーズ調査を行い、児童、特に発達面で支援が必要な子供たちに対するサービスへの要望が声としてあった（放課後等デイサービスについては、これまでは陸前高田にはないサービスであり、当事業所が初めての指定事業所となった：2013年9月～岩手県指定認可）
<b>移動型子どもセンター「走る！KnK子どもセンター」による子どもの居場所作り、見守り支援</b>
陸前高田市教育委員会から、放課後や学校の長期休み期間の子どもたちの居場所がないという声を聞き、当時は活動に使用出来る場所が限られ、また人の移動も多かったことから、バスを改造した移動型子どもセンターを学校や仮設住宅の空きスペースに持って行き、活動を開始した。常駐スタッフを配置したバスの中では、子どもは宿題や勉強をしたり、友人やスタッフとおしゃべりやゲーム、読書をして過ごしている。その後、メディアでセンターのことを知った住民からのリクエストや、当団体の現地調査結果を元に、適宜運行場所や日数を見直しつつ活動をしている。
<b>「うごく七夕まつり」における、川原地区の山車制作手伝いと祭り当日参加</b>
2011年8月に行ったボランティア活動（陸前高田災害ボランティアセンター申込み）が、山車制作後の地区公民館の清掃活動であり、活動後まつり会場にて山車曳きに参加した。翌年、改めて川原地区から山車制作準備の人手が不足しているとの声がかかり、飾りの制作や倉庫建設などの手伝いを行った。当社は企業ボランティアとして月1回の活動実施を目標にしており、この活動も月1回、3カ月に渡り行うこととした。

<b>就労支援事業、健康支援事業</b>
就労支援事業：貧困・高齢による就労機会の減少 健康支援事業：高血圧・不眠等の訴えの急増、陸前高田市全体の高齢化
<b>広田町天王前「みんなのふれあいひろば」の花壇造りと管理</b>
バスボラで初めて訪れた際に、他の地区より復興が遅れてると感じた仲間が、作業依頼してくれた方に声を掛け、瓦礫撤去などを行ううちに、仮設の方々から「集える場所が欲しい」との声が上がり、パークゴルフ場や花壇などを作った。
花壇や畑の手伝い・支援物資の配布・一般ボランティアのコーディネートなど なるべく前に出ないで、現地の人たちの下支えとなるよう努力した。
<b>移動支援</b>
東日本大震災の被害により各種病院等施設は、仮設復興するも散在していたり、さらに長年住み慣れた住宅を失い仮設住まいになったため、施設から遠隔になった人も多数おり、病院へ行けない、行く足がない、バス停まで遠い等の声が多くあった。

○代表・コアメンバーの発案

<b>センター窓口において、NPO、地縁団体からの設立・組織運営・企画運営等に対する相談支援を主に、まちづくりのために活動するアクターのサポートを実施。</b>
震災後、陸前高田市にはこれまで少なかったNPOが多く立ち上がったが、ノウハウも経験も資金もない中で運営をしていけばいずれ壁に当たることを危惧、同市には中間支援拠点がなかったことを受けて、2012年にセンターを設置した。以前からこの地区へのセンター設置を運営法人では考えていたが、震災がその契機となったことも要因の一つ。
<b>支援団体の支援、中間支援業務、マッチング、団体コーディネート</b>
当初各地の活動団体がより円滑に活動できるように、県域の中間支援としてスタート。陸前高田市では構成団体の一団体をパートナーとして、当該団体と協力し外部支援のコーディネートやマッチング等を主に行う。
<b>情報誌「いいことマップ」の刊行。取材ツアー（「陸前高田ガイドブックキャンプ」）の実施。ガイドブック作成準備（取材・編集）。</b>
「いいことマップ」発行については、2012年4月のメンバー内でのワークショップで方向性を決定。陸前高田ガイドブックについては、陸前高田の商店街や市役所商工観光課、商工会などの方々と協議の上（2013年7月）、取材ツアー（ガイドブックキャンプ）を実施して、その参加者に取材・記事作成を行ってもらおうという方針で作成することとした。
<b>仮設住宅における被災者の暮らしの状況の調査活動や被災住民主体の復興まちづくりに向けたワークショップの開催等</b>
2011年から継続して陸前高田市内・市外の仮設住宅居住者の暮らしの状況や自治会活動、外部支援の状況等についてインタビュー調査を行ってきており、2013年度は3回目の調査を実施した。また、広田地区の防災集団移転協議会の組織化支援と、復興マスタープランづくりのための支援を行ってきており、2013年度は、広田の田谷地区の低地利用のためのワークショップを行っている。
<b>仮設住宅、みなし仮設住宅の見守り活動、雇用・生業支援、キャパビル（研修・講習）</b>
陸前高田市の地元の方を雇用する形で、地元の言葉での対話を大切にしながら活動をしています。顔の見える関係で継続的に見守りをする事で、被災した方々が安心して生活をするための一助となる事を目的としています。
<b>陸前高田司法書士相談センターでの相談業務、センターを拠点として陸前高田市・大船渡市・住田町全域の仮設住宅への戸別巡回相談</b>

## 仮設住宅の環境整備（階段、畑のネット・土留め設置、ペンキ塗り）・コミュニティづくりを目的としたイベント運営補助・生活支援（便利屋さん）牡蠣養殖業の手伝いおよび牡蠣小屋の環境整備

昨年度からのつながりを継続しつつ、仮設住民の方とのコミュニケーションをより一層深くしていきたいという思いから、単なる一方的に作業して終わるのではなく、一緒に活動することで住民とのコミュニケーションも生まれ、徐々に住民主体の活動のきっかけづくりになると思ったので。また、高齢者のお宅の換気扇掃除や草刈りなどの「便利屋さん」活動を通して、普段言えない「声」が拾えると思ったので。

## 心のケア班とボランティア班による活動

大学として、三陸復興への支援を決定したことによる。主な活動内容としては、リラクゼーションセミナー、みちくさルーム(子どもとの関わり、地元子ども支援団体との連携、足湯等の他大学との連携した活動)となっている。

## 被災地と支援者をつなぐマッチング活動と、現状を県内外に伝える情報発信、各地域の支援団体間のネットワーク強化

産学官連携組織の作業部会による発案

## 子ども（小学生）対象のフットサル交流会と、横田地区のみなさん対象のジンギスカン屋食会や子どもお茶っこ

校庭に仮設住宅が建設されてしまうなど子どもたちが思い切り体を動かす時間が少なくなっていることや、異なる小学校に通う子ども同士になかなか交流が生まれにくいことなどを現地で見聞きしたことから、週末の体育館で同じ地区に住む子どもたちと一緒に思い切り体を動かすイベントをと考えたことから。

## 神奈川県内の高校の修学旅行や部活動の合宿のコーディネート

ボランティア活動、語り部、現地の方との交流、同世代との交流。若い世代へ震災を語り継ぐことが重要であることは、被災地に限った話ではない。むしろ今後起こるであろう首都圏の若者たちに、この震災をきちんと伝え、学び、考えるきっかけを与えることが、首都圏の大人たちがやるべきことと考えている。

## 大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラム（ワンデイ交流会）の開催

震災前から仙台で大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラムを実施しており、被災地での活動の展開や全国でその輪をつくるため。

### ○その他の要因

#### 地元団体立ち上げ・運営支援

- ・地元住民からの要望（主に会計管理・団体設立に関わる部分に対するサポート）によって。
- ・当会の事業（法的支援、コミュニティ支援）終了にあたって、地元住民に事業を引き継ぐ必要性があった。また地元住民にとってもNPOの組織運営に精通しておらず、サポートする必要性があった。
- ・当会の事業（ボランティアセンター運営支援を通じた市内支援団体のネットワーク構築支援）終了にあたって、地元団体に事業を引き継ぐ必要性があった。

#### 陸前高田市における、「観光」「IT」「インフラ」を中心とした事業

震災以降、物資支援・情報発信・避難所支援などのボランティア活動を続ける中で、復興に向けた活動は10年20年とかかる判断。過疎化地域として元通りになる「復興」ではなく「若者流出」「農業・漁業の衰退」「情報格差」といった地域課題が解決された「震災前よりも発展した陸前高田市」を目指し、行政・市民・企業・団体などの多様な担い手と共に連携・協働を進め事業を推進し、陸前高田にひとりでも多くの笑顔が創られることを願い、活動を続けている。

#### 図書館活動

被災地の子ども達に対して、本に親しむ活動をしている「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」との繋がりが出来たことがきっかけ。

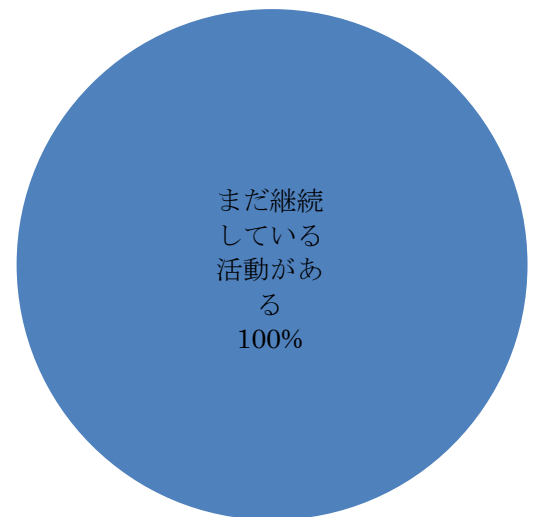


<b>市内全域の植樹活動ならびに映画「あの街に桜が咲けば」の市内上映</b>
主体事業は前年度からの活動内容の継続。映画の上映に関しては、コアメンバーの発案によるもので、映画が完成したため団体主体で上映会を開催する運びとなった。
<b>青少年の健全な育成に資する活動（高田の未来はぼくらが描く、坂本龍一チャリティコンサート等）</b>
震災以前から青少年の健全育成を目的とした事業を展開しており、これを継続したもの。
<b>ふれあいサロン、移動販売車、バスボランティア、炊き出し、手作り品の販売、リフレッシュツアー</b>
当団体は、沿岸被災地にも多くの組合員がおり、組合員が協同して地域や自分達の暮らしを良くしていくために、事業活動とともに組合員さんの活動を実施しており、支援活動も必然的に実施。県とも災害時の協力協定を締結している。
<b>直売所、地域コミュニティ</b>
高齢者の生きがいとしての働く場所づくりを目指し、生産者が野菜をもってきて稼げる場所、仮設で引きこもりがちな高齢者がお茶をのみ、歌をうたい、その日のことを話し、情報交換と生き甲斐をもって働くことができ、元気に居られる場所が必要だと感じ、立ち上げに至った。
<b>出張相談会の開催、個別支援（自立/家計相談）</b>
2011年6月、内閣府のモデル事業として活動開始。対象地域は岩手県南部。2012年4月からは、対象地域を沿岸南部まで拡大し活動。2013年は、厚生労働省のモデル事業として、自立相談支援機関として活動。
<b>市内3か所移動図書館活動「陸前高田コミュニティー図書室」</b>
市立図書館が被災してしまったことをうけ、住民に本を読む機会を途切れさせないため移動図書館活動を始めた。
<b>法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等</b>
岩手弁護士会、日本弁護士連合会による法律事務所の設置による
<b>窓口（大船渡市は常設、陸前高田市は週1回）での相談対応、専門家相談（弁護士、司法書士等）の実施、情報の発信</b>
県として、地域の生活再建等の支援のため、大船渡市内に常設の相談窓口を開設。その後、陸前高田市内の方も利用しやすい場所で相談できるように、陸前高田市と連携して、市役所内に相談員を派遣して相談窓口を設置することとした。現在は毎週木曜日に行っており、相談員1名が市職員とともに相談や問合せに対応している。
<b>他団体が主催する「子どもまちづくりクラブ」への印刷物提供・資金支援</b>
2011年6月に高田高校で当団体が開催した「学生復興会議」で提案された未来の街づくりを継承していくべく、子ども主体の当該組織への支援を開始した。
<b>癒しや自然治癒力を高める健康法を実施、心身共に健康な町づくりを進めていく。</b>
生活習慣病の蔓延や、健康寿命が短くなっている現代社会において、予防や健康増進をメインにして、よりよく生きていくあり方が現代社会には必要であると感じ、想いを同じくする方々と手を携え、地域のコミュニティ、協力ネットワークづくりを行いながら、健康的に自立した町づくりまで行っていきたいと考えスタートしました。
<b>市役所にシニア土木技術者の派遣・都市計画課にて技術支援</b>
資格を持った土木・建築技術者が被災地では採用が難しいため、NPOの全国ネットワークで人材を発掘し派遣。

## 2. 支援の継続状況

まだ継続している活動がある	100.0% (41 団体)
すべての活動が、途中で終了している	0.0% (0 団体)

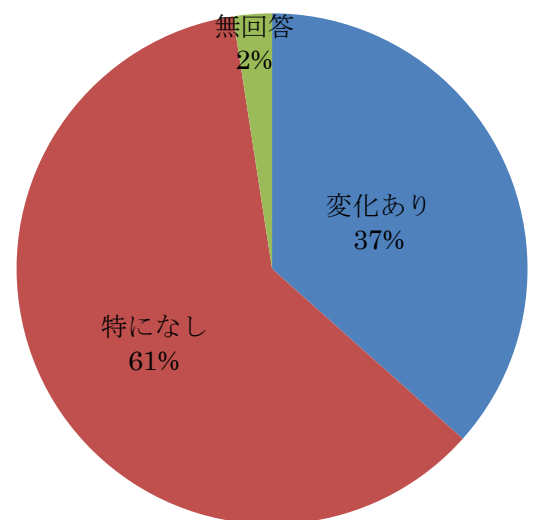
- ・年度の途中で支援を終了した団体はいなかった。



## 3 支援内容の変化

変化あり	36.6% (15 団体)
特になし	61.0% (25 団体)
無回答	2.4% (1 団体)

- ・年度変わりでの変化を挙げる団体が多い。



### ○時系列の変化集計（表右側の【】は回答団体の支援カテゴリ）

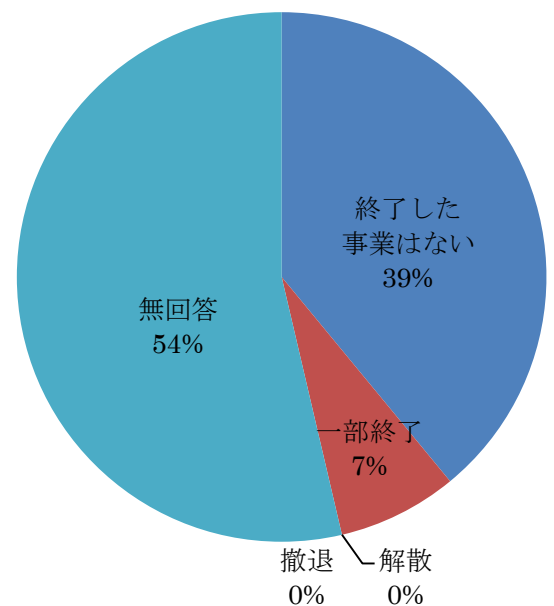
2013年	<p>当初の学校に対しての備品や教材・教具などの物資提供から、2年目には教職員の心のケアを目的とした居場所づくりを行った。当初は意図しなかったが、2013年になり、この施設が子どもたちの居場所や課題を持った子どもたちを見守ろうとする人々とのつなぎの役割も担うようになってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の子どもたちが、休日や夏休み・冬休みなどの長期休業中に遊びに来るようになった。</li> <li>・震災直後、避難所で子ども支援の活動していた県外の団体が、当時関係を持った子どもたちとの再会や活動としての場として利用、その中での特に現在でも支援の必要のある課題を持った子どもについては、学校を交えて支援の方向性などについて話し合った。</li> <li>・不登校の子どもにとっての居場所となる可能性もあると感じている。</li> </ul>	【教】
2013年 3月	<p>支援物資の終了を機に、対象を「各仮設」から「要支援者」の見守り活動に転換。他にも仮設支援を行っている団体が多数あることに加え、数量も少ない為、対象を要支援者に限定した。公営住宅への入居に至るまで、高齢者の独居の生活の見守り活動を実施していく。</p> <p>当初、重機を扱えるボランティアとして花壇造り・整地などの支援活動をしていたが、住宅の基礎作りなど、業者としての依頼が来るようになったため、支援内容を選別した。（民業にかかわる部分は業者が請負、ボランティアはあくまで無償の範疇で実施。）</p>	【生活】 【収】 【他】  【コミュ】

	<p>移動型子どもセンター運行場所の変更。学校の統廃合に伴い、2013年3月をもって小友小学校での中学生向け運行を廃止。学校統廃合により、小友中学校が高田東中学校へ合併されたため。</p>	【教】
2013年 4月	<p>仮設住宅・イベント等への物資マッチングから、支援団体等への活動継続支援マッチングへの転換。寄せられるニーズの内容が、団体の資金確保やマンパワー不足などの組織課題となってきたため。</p>	【コミュ】 【産業】 【情】
	<p>以前から月例開催されていた子ども支援者間連携会議に、今年度からは行政からの参加者も見られるようになった。(生涯学習課・教育委員会など) 行政側も市内各所でこれまで(今でも)活動している『支援団体や市民活動の様子を知りたい』といった動きがあったとのこと。また、同分野における連携を模索したかったという声も。当該連携会議は支援団体や地域・市民団体による出席者にて、教育・子ども支援分野におけるクラスターの役割を担うことのできる『つながりの場』を目指し、継続実施中。</p>	【子全般】
	<p>団体立ち上げ運営支援から団体運営支援のみに変化。対象団体の法人登記の完了に伴うもの。</p>	【その他】
	<p>被災地のニーズの変化にあわせて、バスボラは毎週から月2回に縮小。併せて、少人数のボランティア派遣の実施。大型バス1台での大人数のボランティアのニーズの減少に伴うもの。</p>	【生活】 【コミュ】 【ボラ】
	<p>「いいことマップ」の発行については、2012年度は4回発行したが、その後頻度を減らしている。(作成予定有り) 背景として、別媒体の作成(ガイドブック「たかたび」)に時間と労力を費やしたため。</p>	【コミュ】 【情】
2013年 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアバスの回数の減少。「毎月」から「年2回のスタディバスツアー」「1~2か月おきの自走便」の実施に切り替えた。ボランティアをたくさん送り込むというような活動が減ったことに加え、「作業系の活動はできないが東北へ行って見ておきたい」という声が多く、経済支援も兼ねてスタディバスを出すことにした。また、参加者の減少と少人数での小回りの利く動きで幅広く対応できるようにと、数回は乗用車での活動とした。</li> <li>・「自団体だけで行うボランティア作業」から、「住民や子供たちと一緒に行う活動(ペンキ塗り、祭り、畑の土留め設置など)」に活動内容を転換。交流(コミュニケーション)も兼ね、徐々に住民主体に移行して行ってもらいたいため。</li> <li>・地元で出来る支援活動(講演会・物品販売など)の実施。風化防止と地元防災意識を市民にも伝え、地元でも出来る支援に協力していただこうと思ったため。</li> </ul>	【ボラ】 【コミュ】 【生活】
2013年 6月	<p>移動型子どもセンター運行場所の変更。気仙町長部漁村センター、矢作町矢作小学校で中学生向けの運行を開始。現地調査の結果、公的な居場所支援(学びの部屋など)が実施されていない、もしくは実施されていても利用しにくい場所であることから運行を開始。</p>	【教】
2013年 8月	<p>これまでは、仮設住宅自治会長へのインタビュー調査を実施していたが、2013年度は仮設住宅居住者に今後の住まいと暮らしに関するアンケート調査を行った。仮設住宅の居住者の住まいに関する意向や、長期化する仮設住宅における暮らしについての実態を把握する必要性を感じたことと、過去2度のインタビュー調査の実施から自治会長などの調査協力の可能性が高まったことをうけて。</p>	【他】
2013年 9月	<p>事業所の独自事業から岩手県の指定事業所(児童発達支援事業及び、放課後等デイサービス事業)への移行。より良いサービスの向上(専門的な支援)と継続的な支援を行うため。</p>	【教】

	集会所管理人を廃止し、住民自ら行動を起こす自立支援にシフトを行った。これからの支援は仮設住宅のみならず、地域に根差した支援を行っていくべき。仮設住宅入居も2年を経過し、狭いながら仮設住宅の生活に順応していると感じている。しかしながら、今後の住宅再建への具体的な見通しも立っていないことから、引き続き、寄り添いながらの常駐支援が必要。	【コミュ】 【生活】 【窓・取】
2013年 10月	作成している情報誌を配布するかたわらの傾聴の内容に変化があった。住宅の問題について一部の地区では集団移転の候補地が確定したこともあり、話題も今後の生活についての話題が多くなり、地域コミュニティの話が出てくるようになった。生業についても震災後の基盤の整備事業から、今日では収穫の質的/量的な話が多くなった。また、今までは全国のボランティアの皆さんに大変にお世話になったので、今度はお返しをする番だと言って、嬉しそうに荷造りしている姿が眩しかったこともある。	【情】 【コミュ】 【キャパ】
2013年 11月	移動型子どもセンター運行場所の変更。利用者がいなかったことから矢作町矢作小学校での運行を中止、他の運行場所での日数を増やすことにした。バスへの送迎が必要だったことから利用者が伸びず、学校を通し利用呼びかけをしたが需要がなかったことから運行休止した。	【教】

#### 4 支援の終了状況

対象期間内で終了した事業はない	39.0% (16 団体)
陸前高田で展開してきた活動の一部を終了 (継続している活動も有)	7.3% (3 団体)
陸前高田での事業をすべて終了し撤退 (団体としての活動は継続)	0.0% (0 団体)
団体そのものを解散	0.0% (0 団体)
無回答	53.7% (22 団体)



一部終了	<b>法的支援事業、コミュニティ支援事業を、地元団体に事業を引き継ぎ</b>	【他】
	引き継ぎあり。引き継ぎ団体に2012年10月より移管を前提に協働、引き継ぎ団体の活動の目途がたったため、2013年3月末で引き継ぎ完了とした。	
	<b>買物等への送迎を廃止し、医療機関への送迎に限定</b>	【生活】
	引き継ぎなし。市が同様のサービスを始めた。資金不足による事業縮小のため。	

## 5 地域にもたらした変化

2013年	地域別の復興の進度（具体的な復興計画に基づいた公営住宅の建設や土地の買上等々）によって、より具体的な相談（例えば相続など）が多くなってきた。	【法】
	仮設住宅間・地域間に溝が生じていたため、イベントなど仮設住宅のみならず地域にも参加を呼び掛けたり、敷地内にあるコミュニティー図書室との協力など、少しずつではあるが、地域間の溝を少なくしている。	【コミュ】 【生活】 【窓・取】
	サロンを縮小しないで継続的に実施している中で、社協や相談員から他でもできないか相談され、手芸実演のお手伝いを実施するなど、できる範囲で拡大している。	【生活】 【コミュ】 【ボラ】
	情報誌やソーシャルメディアを通じた情報発信、コミュニケーションを通して、陸前高田市内の個人や団体、また全国で陸前高田に関心をもつ人々との関係性が形成されてきた。最近では市外の人々から陸前高田のガイドやアテンドをお願いされることもちょくちょくあるようになった。	【コミュ】 【情】
2013年 2月	仮設住民を対象としたリラクゼーションのための事業では、各仮設の方々の交流の場を提供でき、参加した方に喜んで頂いていた。今後も活動を継続。	【生活】 【収】 【他】
	移動図書活動、図書館活動ともに、本の貸し出し・お茶を提供しサロンを開き、交流を生んだ。	【コミュ】 【情】
	移動型子どもセンターの直接の対象は小中学生だが、活動場所の仮設住宅の方への積極的なあいさつやお話などの交流で、仮設住宅に住む方々にも当事業の影響の広がりを感じている。例えば、「センターで元気に遊ぶ子どもたちを見ると、こちらも元気になる」という声を仮設住宅の住民の方から頂いたり、当センターの子どもたちと地域の方々が一緒に探し物をするなど、当センターが子どもと地域の方の交流のきっかけになっている様子が見られる。	【教】
	無料専門家相談のうち、司法書士への相談件数が増加し、弁護士を上回る件数の相談が寄せられるようになった。開設当初は弁護士への相談が多かったが、土地の買い上げに伴う名義変更などの司法書士が対応できる内容について、センターだより（広報）や窓口等で無料相談の周知を行っていたところ相談件数が増加し、弁護士と同数かそれ以上の相談が寄せられるようになった。	【法】
2013年 3月	名古屋圏へ販路を拡大した事業者が生まれ、販売強化支援を行うことができた。	【産業】
2013年 3月	職員の顔を地域の方に覚えてもらえるようになり、各イベント事を行うときに、地域住民からお手伝いをしてもらえる関係性が出来てきた。	【他】
2013年 4月	事業において当会が行なっていた時以上に、引き継ぎ団体と地元住民との交流・協働などが増加した。背景には引き継ぎ団体もまた地元住民であるため、従前のコネクションを活かして、団体の認知度向上・信用性の担保・顔の見える関係といった部分で大きなメリットがあったためと思われる。	【他】
	以前から月例開催されていた子ども支援団体間の連携会議に、行政からの参加者も見られるようになった。（生涯学習課・教育委員会など）行政側も市内各所でこれまで（今でも）活動している支援団体の様子を知りたい、また同分野における連携を模索していきたくったとのこと。	【子全般】

	自団体の声かけにより、行政（被災者支援室）との定期的な協議の場が設定され、情報交換ができるようになった。（各団体の活動状況や地域課題、それに対する解決策など。）	【窓・取】
2013年 4月	当団体の活動と同様のサービスを市が開始した。（デマンド交通）	【生活】
	当団体がコーディネーターとなり、多くの医療有資格ボランティアが訪れ、マンパワーの増大により、多くの被災者の相談に応じられるようになった。「定期的に相談にのってもらいたい」「こちらにも支援に来てもらいたい」というニーズに対し、医療有資格者のマンパワー不足で実施できていなかったところ、健康支援活動がボランティア資源により達成できた。	【医・保】 【コミュ】
	卒業生へコサージュをプレゼントする活動を通して、仮設の方々の助けを借りながら、今度は支援を受ける側から、仮設に入っている中でも町の為に何かできるというような人が増えてきた。仮設に入っている人達を支援する中で、仮設に居ながらも「誰かの為に、何か」という気持ちの方が居る事が判明したため、活動と一緒に参加してもらうことを通じてコミュニティの構築を図ることを検討していた。丁度、管内小学校の卒業式に子ども達にプレゼントするコサージュ作りを行っていたので、その活動に参加してもらえることになった。	【医・保】 【教】 【コミュ】
2013年 5月	仮設住宅での法律相談だけでなく、住民主催の高台移転協議会等の講師を依頼されるようになった。高台移転が次第に現実化するにつれ、住民側からの法律専門家の参加のニーズが高まったのに加え、弁護士（法律事務所）の存在の認知度が高まったものと思われる。	【法】
	ホームページ作成支援では、商工会からの相談が寄せられるようになった。元々別事業で2011年から関係があったが、事業者から個別の相談が来るようになったのは2013年に入ってから。復興計画や工事の進行具合とも関係しているように思える。今後増えていく可能性もあると見ている。	【ボラ】 【情】 【雇・生】
2013年 6月	資金獲得の相談やマッチングに加えて、地域の協議会などから事業運営の相談が寄せられるようになった。米崎地区にも窓口を開設したことにより、広田半島に居住する住民の来所、相談が大きく増えた。住民が開催するワークショップの運営サポートを通して地域との距離を縮め、住民の意見や動きを知ることができ、センターとしては相談相手の一つとして認知されてきている。また、地域に深く入っている大学や専門家との繋がりが出来た。	【窓・取】 【キャパ】 【情】
	ふれあいひろばに東屋と畑が出来た事で、仮設から出てきて一休みしていく人が増えてきた。別のボランティアさんが作ってくれた東屋が、畑仕事やボランティア作業（草刈りや瓦礫・石拾い）の休憩所としてちょうどいいスペースとなって、少しだけ人が集まるようになった。	【コミュ】
	企業の活動というだけでなく、社員と住民との絆・信頼関係が強化されてきていると思う。物資の支援だけでなく、当社の職員が地区の方と一緒に汗をかき活動を行ってきたことで、3年目の平成25年度は当社の名前がある程度認知されてきたと感じている。今後何年も使われるであろう山車のかじ取り棒に、社員の名前を書かせて頂いたり、当社名入りの飾りをまつり後に贈呈して頂いたり、絆や信頼関係が生まれてきたことを実感している。これからも細くても長い活動を継続していきたい。	【ボラ】 【コミュ】
	花壇作りや畑仕事の支援活動を実施する中で、参加者の自主性が強くなり、当団体があまり手を出さなくてもよくなった。	【他】 【取】
2013年 8月	再組織化された地区コミュニティ推進協議会の役員から相談があり、協議を重ね、2014年1月に当該町の暮らしと町づくりを考える会を開催することができた。当該地区で住民相互が集まり、町の復興について協議する場合は震災後初めてであり、町内の住民勉強会の取り組みなどの報告があった。小さな契機ではあるが、その意義は大きいと考える。	【他】

2013年 9月	住民に対するさまざまな情報提供の効果により、実行へ向けての自発的な活動が多く見られるようになってきた。住民と支援員との交流や、毎月発行している情報媒体（連絡会通信）等により当会が徐々に認知され、住民や関係各所からの相談が増えてきた。住民に対しては、助成金の申請サポートやコミュニティ新生・まちづくりへ向けた自主活動への具体的な手伝いも多くなり、「誰かがやってくれる」「誰かにやってもらう」から、「自分たちでやるために手伝って欲しい」というような住民の意識の変化が見られる。	【コミュ】 【情】 【窓・取】
	県指定事業所となり、行政や学校との関係構築と地域への活動周知がなされてきた。	【教】
2013年 10月	陸前高田市の他団体から子どもの状況や子どもの接し方についての相談が寄せられるようになったことと同時に、他市町村の保健福祉環境センターより相談が寄せられ、活動を実施する動きが出てきている。	【子全般】 【教】
2013年 11月	住民の要望からいくつかの仮設集会所で手芸講座を開催しているが、小規模の仮設住宅団地より、空き部屋が出来たので、私たちの団地でも手芸講座を開いて欲しいとの話が複数出てきた。	【コミュ】
2014年 1月	当団体の活動をまとめたドキュメンタリー映画の上映会を実施。上映後のアンケートの中に、震災のことを絶対に忘れずに、これから地域のために何かできることを始めるという方がいらっしまった。地域の方の意識の変化に寄与できたと感じている。	【他】

## 6 連携事業

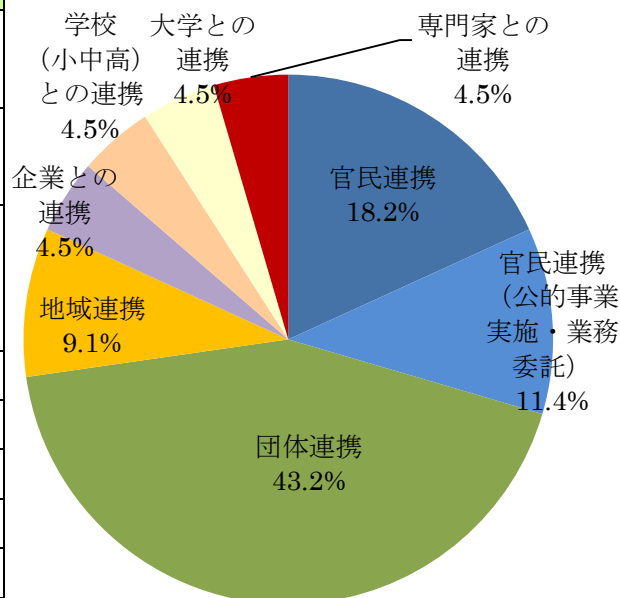
※ 事業の内容で、対象となる連携要素は複数カウントしています。

例) 団体が行政と組んでイベントを実施、専門家の参加もあった場合→官民連携・専門家との連携

専門家と組んでイベントを実施、行政の参加もあった場合→団体連携・官民連携（専門家による回答）

※2 県外の事例についても備考に記入してあります。

連携の内容	% (件数)	備考
官民連携	18.2% (8件)	・1件は専門家による回答
官民連携（公的事業実施・業務委託）	11.4% (5件)	・1件は県外の事例
団体連携	43.2% (19件)	・1件は専門家による回答 ・2件は大学による回答 ・2件は企業による回答
地域連携	9.1% (4件)	・1件は大学による回答
大学との連携	4.5% (2件)	
学校（小中高）との連携	4.5% (2件)	・2件は県外の事例
企業との連携	4.5% (2件)	・1件は県外の事例
専門家との連携	4.5% (2件)	



<参考>官民・団体・地域連携事例のうち、いくつかの事例の紹介

### ○官民連携

- ・「新しいまちづくり市民会議」の開催
- ・陸前高田ガイドブック「たかたび」の取材、発行
- ・移動型子どもセンター「走る！KnK子どもセンター」の運行
- ・仮設住宅弁護士派遣業務 他

### ○団体連携

- ・ネットワーク連携事業
- ・「私たちが思う陸前高田」企画（市長・副市長・市役所職員との座談会など）
- ・陸前高田市仮設住宅インタビュー調査、仮設住宅居住者の住まいと暮らしに関するアンケート調査 他

### ○地域連携

- ・「逃げ地図作成ワークショップ」企画
- ・住民向け低地利用のためのワークショップ 他

以上